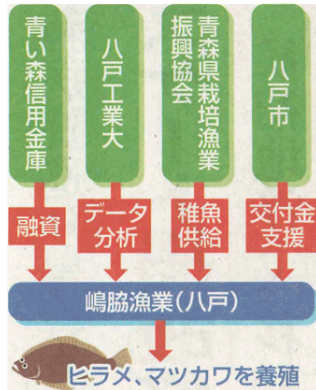


# デーリー東北

2024年(令和6年)8月22日(木曜日) (3)

産学金官が連携する  
陸上養殖の仕組み



## 産学金官連携 陸上養殖事業



八戸市は21日、産学金官連携による陸上養殖事業に乗り出す方針を正式に発表した。同市の漁業会社「嶋脇漁業」（嶋脇文字社長）が事業主体となり、青い森

# 主体は嶋脇漁業（八戸）

## 段階踏み事業拡大目指す

信用金庫、八戸工業大、青森県栽培漁業振興協会、市の5者で実施。市内の遊休倉庫を活用し、ヒラメと大型カレイのマツカワを養殖する。来年4月以降に開始し、試験的な養殖などを経て段階を踏んだ事業拡大を目指す。市が陸上養殖事業に関わるのは初めて。

同日の市議会経済協議会で市水産事務所が概要を説明した。嶋脇漁業が民間事業者から倉庫を借り受け、飼育水をろ過、循環させて再利用する「閉鎖循環式」の陸上養殖に取り組む。

事業費は約5800万円。養殖水槽、ろ過槽、加温冷却装置、非常用発電装置などの初期投資費用に充てる。国の地域経済循環創造事業交付金を活用し、国と市がそれぞれ1250万円を嶋脇漁業に拠出。青い

初めて、水産業の活性化に資する」と期待した。5者は26日に、陸上養殖ビジネスモデル構築に関する連携協定を結ぶ。交付金関連の補正予算案は9月予定の市議会定例会に諮る。（松原一茂）

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。